



第 134号

代田・九条の会News

2020/1/14

編集
代田・九条の会
小澤 清子
伊東 宏

itohiroshi1007@gmail.com

ホームページ : <http://www.daita-9jo.sakuraweb.com/>



2020 年を迎えて

新しい年を迎えました。

今年も、また、激動の年が予想されます。と書いて、毎年「激動」という言葉を使ってきたな、と思ひ当たりました。

振り返ってみると、2015年の「戦争法」以来、国会での多数を頼みに、着々と憲法9条を実質的に崩しにしてきました。そのうえに、2017年には、従来の方向とは異なる、第9条の第1項・第2項をそのままにし、「自衛隊」を書き加えるという提案を行うなど、安倍首相の「改憲」への意欲は、決して弱まっていないからです。

昨年参院選では、改憲派といわれる勢力は三分の二を割り込み、到底「勝利」とは言えない状況に追い込まれました。しかし、安倍首相は「勝利した。改憲を進める」と選挙直後から言い、今年も年頭からあちこちで言っています。

1月20日から通常国会が始まります。消費税増税の生活への悪影響や昨年の自然災害からの復旧、格差の是正など、数多い課題に取り組むべきところです。自民党の「改憲4項目」の審議入りなど、改憲のための憲法審査会の審議は決して優先されるべきものではありません。

昨年来明らかになってきた「桜を見る会」の疑惑、IRをめぐる疑惑、国会を無視した中東への自衛隊派遣の強行など、安倍政権の数々の国民軽視・法無視の姿勢の追及も大切なことです。

代田・九条の会も創立して12年目を迎えます。相手があきらめないのならこちらをあきらめず粘り強く活動していきましょう。九条を守る活動を進めるうえで、今年も、署名活動や学習会・講演会の開催など準備をしていく予定です。さらに、九条を守ることの大切さの上に、憲法が持つ国民主権・基本的人権・平和主義のすべての面が実際に生かされていくように運動をすすめていきましょう。

今年もよろしくお祈りします。

(代田2丁目・伊東 宏)



寄稿 2019 年を振り返る

昨年1年を振り返ると、こんなにもあったかと思うほどいろいろありました。

人物で世相を見るというのを新聞などで良く目にしますが、身勝手に乱暴な人は政治家で見ると10指に余るほど沢山浮かびます。その一方で、世界にぬくもりと希望を与えた人物は、と聞かれると私は3人の方を挙げたいと思います。ローマ教皇フランシスコさんの長崎、広島でのスピーチはカトリック信者ならずとも深く感動したのではないのでしょうか。

もう一人、こちらがクリスチャンですが、アフガニスタンで本当の意味での人道支援をなされた中村哲さん。街頭署名で、「あんな素晴らしい人が殺される、そんな世相だから海外には武器を持って出て行くべき」とあれっと思うような言葉を残して立ち去った婦人がいました。彼がアフガニスタンであれほど尊敬を集めていたのはなぜなのか。単なる「理想主義」では片付けられない実践の重みをもっと広く支援していかなくてはと思ひました。最後はグレタ・トゥーンベリさん。地球温暖化は閾値を越えて、再生不能な破局(カタストロフ)に入りつつあります。もしかしたらもう入ってしまったのかも知れません。「わたしたち若者と次の世代のために未来を残して!」この声には真摯に向き合うことが求められています。

(代田2丁目・福島 和夫)

世田谷・九条の会事務局長)

お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。

また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめてみましょう ～

+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++

2020年 新年にあたって

私達 代田九条の会は、昨11月7日11周年記念のついでに開きました。その間の活動としては、年々日程の講演会等々集会、1号も欠かさないニュース(月報)の発行(133号)、改憲阻止の署名運動、全国集会等への参加・協力等が平和憲法を守り一翼をになつて来たと思つても良いと思つています。その間活動の中心になつたのは、8,9名の幹事団が献身的に走りも良く頭が下がります。(かし、会のこのやりとしては、どうであつたか問題が、今後はその実の反省・検討が課題ではないかと年令的に活動が難しくなつた現在抜付に載りたいと切に望む次第です。
(代田5丁目野間口至89才)

9条は世界の宝。
皆様の健康をお祈りしております。
加藤 榮一

新年にあたり

今年は、安倍政権に真正面から挑まねばなりません。安倍首相は、年頭の会見などで、総裁の任期中に憲法九条などの改憲に突き進む執念を露わにしています。国民の声は、昨年7月参院選が示したように、自公などの改憲勢力の議席を発議に必要な2/3以下に押さえ、「安倍九条改憲NO!」の審判を下しました。昨年末の世論調査でも、改憲反対が過半を超えています。私達も、改憲反対の声を更に掘り起こし、全国の仲間とともに改憲の提案も、発議もさせないために、大いに力を発揮しようではありませんか。 坂本 功

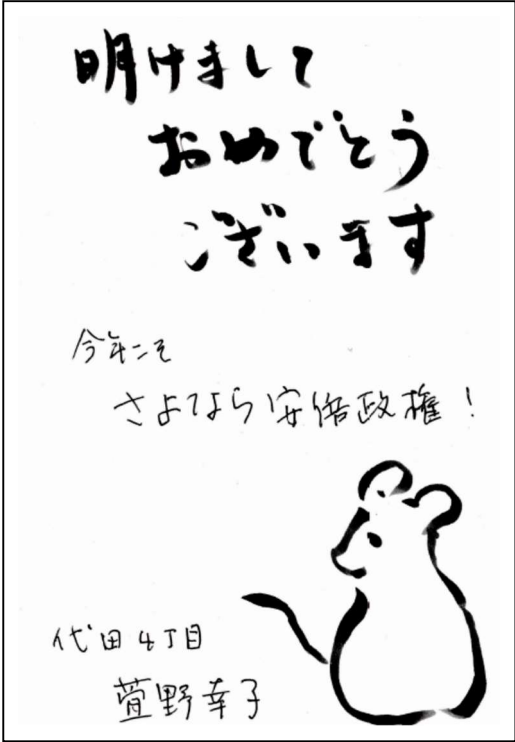
春を呼ぼう

2020年は物騒な幕明けになりました。米トランプ大統領の根拠のないイラン攻撃、イランの報復攻撃。その後軍事衝突は当面回避されました。米国に追従する安倍政権は、国会審議も経ず閣議決定で自衛隊の中東派兵を決定しました。安倍日本丸は、国民を何処に連れて行こうとしているのでしょうか。代田九条の会は、今年12年目・準備会を含めると13年目を迎えます。呼びかけ人の中5人の方が他界されましたが、新たなメンバーが事務局に加わり継続されています。今の情勢を見るにつけ、この地域に九条の会を立ち上げて本当に良かったと思っています。国民投票法の改正案は、憲法審査会で採決されませんが、安倍首相は、「次の通常国会で憲法改正原案の策定を加速させたい」と改憲への執念を示しています。「政治の私物化」、改憲を阻止するには、国民の政治への怒り・関心の高まりが重要です。「改憲NO」の声を広げていきましょう。昨年秋に孫と植えたチューリップの球根が芽を出しました。
“暖かな春は厳しい冬の後からやってくる”
小澤 清子



ガリとくして冷めやすい根菜のなまこにつけ込まれ、あらゆることに耐えてきたものに向き合ひたい。新政府に私をどう扱ってやるのか。オリーブ、パプリック、クマゲツ、さくら、いよりにハハ、横川 功

何日か前のイランの司令官の殺害。アメリカ共和党も二つに割れているようです。アベさんにコメントを求めたら「ノーコメント」。自分の意見を持たず、誰かに踊らされている様子。ますます九条を守る結束を強固にしなければ、と思います。
湯沢 勉



代田・九条の会の会合になかなか出席できず、申し訳なく思っています。

演劇人の仲間たちと「安倍法制に反対し安倍政権の暴走を許さない演劇人・舞台表現者の会」という長い長い名前の会を立ち上げたのが2015年。あれから毎月19日に各劇団の各々の所在地の駅頭でサイレントスタンディングをやって、もう五年の月日経ちました。今年こそ、安倍政権を倒し、時代を転換させなければ。そのためにも憲法の中身をもっと政治に生かす道をわかり易く示していく必要がありますね。

本年はできる限り参加するようにしたいと思います。

一つづつやれることから。 福島 明夫

漢族によるウイグル族への弾圧に抗議します。(荒川)

ウイグル族の歌曲に「青春舞曲」という歌がある。歌詞の一節に「太陽下出明早一定色上来花兒明天一樣的開」という一節が。陽は上っても、また沈む。花は咲いても、また枯れる…。あゝ悲しいかなーというフレーズ。(一部略)

若い時、私は平気で歌っていたが、いま思うと漢族への抵抗があったのでは？と思う。

それでも、中国政府のウイグル族への弾圧は許せないもの。中国・遼寧省出身の私としては、決して見過ごすことはできません。信教の自由を守ることは、大切なこととす。

荒川 興道



次の世代に憲法9条をつなごう

5兆3,133億円——。これは安倍晋三内閣が昨年末に2020年度政府予算案で決定した軍事費。8年連続増の過去最高の金額です。戦争につながるこの軍拡予算は私たちの暮らしを犠牲にした税金が源です。決して許すことはできません。憲法9条を守り、運動をさらに強める大切さを痛感しています。

いま、私は小学生児童の通学路で「おはよう声かけ運動」を7年前から毎朝、取り組んでいます。最初は下を向いて歩いていた児童も、その後、「おはよう」と力強い声をはね返ってきて、手と手を「バチッ」と合わせてくれて私は元気をもらっています。次の世代を担う児童に決して武器を持たせない憲法9条の心を広げていきたい。

岡崎 勇 (経堂)

2020年1月1日付で、安倍9条改憲NO!全国市民アクション実行委員会は、「従来取り組んできた署名にかえて、あらためて「安倍9条改憲反対!改憲発議に反対する全国緊急署名」運動への取り組みを呼びかけます。」とする声明を発表しました。

従来の「3000万署名」に変えて、改憲発議に反対と憲法の諸条項の実現に絞った緊急署名との位置づけです。

代田・九条の会では、1月12日(日)の午前、小田急線・梅ヶ丘駅前ですばやく署名活動を行いました。参加者は7名で23筆の署名が集まりました。新しい署名活動をこれから進めていきます。

署名用紙を同封しますので、近くの人に呼び掛けて署名を集めてください。



安倍9条改憲NO!

改憲発議に反対する全国緊急署名

2019年7月の参院選で、安倍晋三首相の改憲に賛成する勢力が3分の2を割りました。有権者は安倍首相に憲法96条の規定による改憲発議が可能な勢力を与えませんでした。

にもかかわらず、安倍首相は民意が「改憲について論議すべき」という意思を表明したなどと、全く事実と反する強弁をしています。そして、自らの総裁任期の2021年までの改憲を目指して、野党の分断をはかり、改憲勢力の再編を狙っています。

政治が果たすべき課題は山積しています。世論の多くは安倍首相の下での改憲を望んでいません。

安倍首相が改憲に固執するのは、日本の軍事大国化をさらにすすめ、「戦争をする国」に変えようとの狙いからです。もし、9条をはじめとする安倍改憲が実現すれば、日本は米国とともに世界各地での戦争や紛争に介入・参加していくことになるでしょう。

事態は緊急です。

私たちは国会が改憲の発議をすることを許さず、すべての市民の平和と人権、生活の向上のため、憲法を守り、生かすことを求めます。

【請願事項】

- 1、安倍首相らがすすめる憲法9条などの改憲発議に反対します。
- 2、憲法を生かし、平和・人権・民主主義、生活の向上が実現する社会を求めます。

集会等の紹介

2月9日(日) 午前11時～ (約1時間) 代田・九条の会 宣伝・署名行動
「安倍9条改憲NO! 憲法を生かす全国統一署名」
小田急線・梅ヶ丘駅前

2月16日(日) 午後2時～4時

映画「ドローンの眼」

第一部 改正ドローン規制法と辺野古

第二部 ドローンで見る沖縄の基地

藤本幸久&影山あさ子製作・監督のドキュメンタリー映画

(沖縄ドローンプロジェクト共同制作)

会場：世田谷区・代沢東地区会館2階大会議室(代沢1-31-8)

主催：代沢九条の会

